

情報通信技術がもたらした新しい情報文化

～大学生の情報行動から見た生活様式と社会様式の変化～

A New Information Culture Brought by Information and Communication Technology

～ Changes in Lifestyle and Social Style Estimated from Information Behavior of University Students ~

新潟国際情報大学 経営情報学部 情報システム学科

高木義和

要約

情報通信技術によりもたらされた新しい情報文化と考えられる“生活様式あるいは行動様式”、“情報処理様式”、“社会様式”について学生の意識調査を行った。その結果、1) 情報を使った価値の創造が十分でない情報文化、2) 考えない情報文化、3)そのまま使用できる情報を選択する情報文化、4) 利便性を追求する情報文化、5) 外出しない情報文化、6) 時空間の拡大を伴うコミュニケーションが可能な情報文化、7)ネットワークでつながっているが十分なコミュニケーションが成立しにくい情報文化などの傾向が認められた。

個人が情報を利活用できる知識基盤社会を実現するためには、1)著作権、プライバシー、個人情報保護、IDパスワードの管理、情報の信頼性など情報コンテンツを利活用するための自主学習力、2) 情報を使って価値を創造する力と、選択行動で快適な日常生活を送る力を両立させる力が必要になると考えられた。

Key words; 情報文化、情報通信技術、生活様式、行動様式、情報処理様式、知識基盤社会

1. はじめに

新潟国際情報大学は情報システム学科と情報文化学科の2学科1学部でスタートした。情報文化という確立された概念はなかったため、科目の内容は発足後作り上げていくものと位置づけられた^{1,2,3,4,5,6)}。当初授業科目“情報文化”は学長の分担でスタートし、その後2~4人の教員によりオムニバス形式で実施された。その後、情報文化学科は国際学部となり当初の情報文化の位置づけも変化することとなった。

文化という概念は各教員のバックグラウンドにより大きく異なる。文化は大きくとらえれば辞書にあるように“社会を構成する人々によって習得・共有・伝達される行動様式ないし生活様式の総体”である。様式は、習慣・しきたり・習得された行動などであり、具体的には“言語・道徳、習俗/慣習、制度/法律、宗教”などである。他にも、価値観、精神的活動の成果物、場合によっては文明までを含む。情報も1955年発行の広辞苑2版⁷⁾の記述では“或ることがらについてのしらせ”のみであったが、1981年発行の広辞苑4版⁸⁾の記述で

は”或ることがらについてのしらせ“、”判断を下したり行動を起こしたりするために必要な知識“と内容が増えた。現在では、目的や目標に対して評価された内容、場合によってはニュースや報道などマスメディアが扱う内容までが含まれる。情報通信技術の発展により実現できる内容が増え情報の意味も広がっている。情報通信技術が扱うデータも一般には情報に含まれる。このように文化も情報も多くの内容を含むことからオムニバス方式の講義では15回を終了した時点で全体を統一できる学習到達目標を明確に設定するのは困難であった。シラバス作成時に学習到達目標を明確にするためには情報文化の定義が必要であった。

情報文化を担当した2007年から12年間に学生を取り巻く情報利用環境が大きく変化した。特に2013年前後のスマートフォンの普及により、ほぼ100%の学生が高校1年でスマートフォンを利用してインターネットに接続できる環境を入手することとなった。その結果大学生の広範な情報行動に変化が生じた。この報告では情報文化の視点から情報利用環境の変化が大学生の生活様式や行動様式に与えた影響を分析する。大学生の情報行動の変化を把握することにより情報教育を考える基礎データとして役立つと思われる。

2. 情報文化の定義と構成要素

2-1 情報文化の定義

個人情報保護やプライバシーの侵害といった概念は、パソコンやインターネットなどの情報通信技術が発展する前にすでに存在したが、大きな問題ではなかった。しかし情報通信技術の発展が名寄せのように情報を組み合わせ統合することを容易にした結果、卒業名簿や住所録や診療記録などのデータを、個人情報保護の観点から法律や条例で規制する必要が出てきた。個人情報保護法（個人情報の保護に関する法律）は平成15年（2003年）に制定された。加えて、個人情報保護法では、地方公共団体については別途条例により規律することとされ、都道府県の“個人情報保護条例”は平成15年度以降、市区町村の“個人情報保護条例”は平成18年度以降に制定された²⁰。

このような実態を踏まえて情報文化の定義にあたり、“情報”を、なかでも“情報通信技術の発展”を情報文化が成立する基盤要素と位置づけた。一方、“文化”を、“社会を構成する人々”によって“習得・共有・伝達”される“行動様式ないし生活様式の総体”と位置づけした。そして、情報文化を、「情報通信技術から生みだされた、新しい行動様式ないし生活様式、新しい社会様式」と定義し、この定義に基づいて講義を構成した。

2-2 情報文化の構成要素

学生の情報行動をとおして、情報通信技術がもたらした新しい情報文化の実態を明らかにするため、“A.新しい行動様式ないし生活様式”、“C.新しい社会様式”に、情報通信技術から個人が直接影響を受ける“B.新しい個人の情報処理様式”を情報文化の構成要素とした。情報通信技術を情報文化の基盤要素とし、A, B, Cの3様式を情報文化の構成要素と考えた。

”A.新しい行動様式ないし生活様式”

”新しい個人の情報処理様式”をベースにして、社会を構成する人々に習得・共有・伝達されるようになった”新しい行動様式ないし生活様式”を情報文化の主たる構成要素とした。

“B.新しい個人の情報処理様式“

構成員によって習得・共有・伝達される共通した様式には至っていないが、情報通信技術から個人が直接影響を受ける“新しい個人の情報処理様式“を、情報文化の実態を明らかにするため情報文化の原点となる 2 番目の構成要素とした。

“C.新しい社会様式”

社会的な要請から情報通信技術が実現した、監視カメラのように、社会を構成する人々に後追いで認知されている“新しい社会様式”を情報文化の 3 番目の構成要素とした。

表 1 に情報通信技術によりもたらされた“A.新しい生活様式あるいは行動様式”を示す。主に情報社会で実現するであろうと想定された主たる 10 様式を取り上げた。影響を受けている 1 位と 2 位の 2 様式の回答を求めた。

表 1 情報通信技術によりもたらされた“A.新しい生活様式あるいは行動様式”

順位	新しい生活/新しい行動様式	1 位の数	1 位と 2 位の合計数
A1	利便性の追求	34	42
A2	時空間の拡大	16	26
A3	忙しい行動/生活様式	11	19
A4	情報の発信ができる行動/生活様式	7	20
A5	膨大な情報利用	5	23
A6	人間関係の希薄化	6	28
A7	脳機能の拡大	1	3
A8	生涯学習	1	1
A9	考える時間の増加	0	0
A10	クラウドソーシング	0	0
	合計 n	81	162

表 2 に情報通信技術によりもたらされた“B.新しい個人の情報処理様式”を示す。文化としての行動様式は本来社会を構成する人々に習得・共有・伝達されているが、ここで取り上げた様式は情報通信技術から個人が直接影響を受ける要素で、社会を構成する人々に習得・共有・伝達されているとまでは言い難い要素である。そこで、すでに複数の個人に共通するいくつかの新しい情報処理様式として認識できる 9 様式を取り上げた。影響を受けている 1 位と 2 位の 2 様式の回答を求めた。

表2 情報通信技術よりもたらされた“B.新しい個人の情報処理様式”

順位	新しい個人の情報処理様式	1位の数	1位2位の合計数
B1	選択行動	37	41
B2	画一化情報の利用	7	12
B3	思考・情報の断片化	8	9
B4	皮相的な判断	2	5
B5	ランキング情報の利用	17	51
B6	外付け脳	4	27
B7	人工知能	6	16
B8	ライフログ	0	1
B9	情報共有/集合知	—	—
	合計 n	81	162

表3に社会的な要請から情報通信技術が実現した“C.新しい社会様式”を示す。新聞などで情報社会の問題点としてとりあげられることの多い内容である。情報通信技術から生み出された“新しい社会様式”は授業で取り上げた項目と説明時間が少ない事から1様式を選択とした。表1の情報通信技術よりもたらされた“A.新しい生活様式あるいは行動様式”や、表2の情報通信技術よりもたらされた“B.新しい個人の情報処理様式”に比較すると、情報通信技術から生み出された“新しい社会様式”に解答が集中した要素はなかった。

表3 社会的な要請から情報通信技術が実現した“C.新しい社会様式”

順位	新しい社会様式	1位の数
C1	効率を優先した社会	16
C2	管理社会	19
C3	監視社会	21
C4	情報公開	5
C5	ビッグデータの利用	8
C6	個人情報/プライバシーの保護	12
不使用	知識基盤社会	—
不使用	情報社会	—
不使用	著作権の侵害	—
	合計 n	81

3. 情報文化の構成要素に関する学生の意識調査方法

対象の学生は多くが2年生と3年生で1998～1999年生まれの学生である。インターネットにアクセスが可能な家庭環境で育ち、高校入学と同時にスマートフォンを入手し、常時ネット接続可能な環境で日常的にインターネットを利用している学生である¹⁹⁾。情報通信技術がもたらした新しい生活様式と社会様式の調査対象として適切と考えられた。

情報文化を構成すると考えた情報通信技術よりもたらされた“A.新しい生活様式あるいは行動様式”、“B.新しい情報処理様式”、“C.新しい社会様式”について学生の意識調査を行った。2016, 2017, 2018の3年間調査を行っているがこの報告では、2018年の履修学生のうち回答のあった81名のデータを対象に分析を行った。図1に調査入力画面の指示文章

を示す。なお、調査では“様式”に代えて“項目”を使用した。

<ul style="list-style-type: none">・学籍番号 1・氏名(漢字) 2・ A.情報通信技術から生みだされた新しい生活/行動様式 (項目 A1～A10 略)<ul style="list-style-type: none">3-1.<ul style="list-style-type: none">・ 情報通信技術から生みだされた新しい生活/行動様式の中から、自分が大きな影響を受けている 2 項目を選択し、最初の 1 項目について記述してください・ 影響を受けている実体を記述し、その後、対応策や向き合う態度を記述してください。200 文字以上3-2.<ul style="list-style-type: none">・ 情報通信技術から生みだされた新しい生活/行動様式の中から、自分が大きな影響を受けている 2 項目を選択し、2 番目の項目について記述してください。・ 影響を受けている実体を記述し、その後、対応策や向き合う態度を記述してください。200 文字以上・ B.情報通信技術が個人の情報処理様式に与える影響 (項目 B1～B9 略)<ul style="list-style-type: none">4-1.<ul style="list-style-type: none">・ "情報通信技術が個人の情報処理様式に与える影響"の中から、自分が大きな影響を受けている 2 項目を選択し、1 番目の項目について記述してください。・ 影響を受けている実体を記述し、その後、対応策や向き合う態度を記述してください。200 文字以上4-2.<ul style="list-style-type: none">・ "情報通信技術が個人の情報処理様式に与える影響"の中から、自分が大きな影響を受けている 2 項目を選択し、2 番目の項目について記述してください・ 影響を受けている実体を記述し、その後、対応策や向き合う態度を記述してください。200 文字以上・ C.情報通信技術から生みだされた新しい社会様式 (項目 C1～C6 略)<ul style="list-style-type: none">・ 情報通信技術から生みだされた新しい社会様式のうち最も興味のある 1 様式を選択してください。・ 最も興味のある 1 様式の実体や問題点を記述し、その後、対応策や向き合う態度を記述してください。200 文字以上。
--

図1 調査入力画面の指示文章 *年度で表現が異なる場合は新しい表現に統一した。

表 1 の情報通信技術によりもたらされた“A.新しい生活様式あるいは行動様式”から 2 項目を選択し、影響を受けている実態と、実態への対応策や向き合う態度を記述するよう回答を求めた。表 2 の情報通信技術によりもたらされた“B.新しい個人の情報処理様式”も同様に 2 項目の回答を求めた。表 3 の社会的な要請から情報通信技術が実現した“C.新しい社会様式”からは同様の内容で 1 項目の回答を求めた。

4. 情報通信技術によりもたらされた” A.新しい生活様式あるいは行動様式”

表 1 の様式の順位は情報社会が工業社会との対比イメージで語られていた時期の順序とほぼ一致しており、授業を担当し始めた 2005 年当時も受け入れられていた順序である

10,11,12,13,14,15,16,17,18)。今回の調査結果でも順序に大きな変化はなく当初想定した順序とほぼ一致した。回答数 81 件に対し 2 割以上（16 件以上）の回答があったのは A1.利便性の追求、A2.時空間の拡大の 2 様式であった。2 割以上の学生が選択した要素は以上の 2 様式であるが、1 割以上（8 件以上）の回答があったのは他に A3.忙しい行動/生活様式であった。

具体的理解が深まるよう回答例を以下に示した。基準は表全体 n=81 件の 2 割以上（16 件以上）の回答数のあった要素について、回答数の 2 割程度を回答例で示した。回答例の選択は 1 位の回答から設問に適合したものを、内容が重複しないように選択した。

4-1 A1.利便性の追求

表 4 に A1 利便性の追求の回答例を示す。A1 の回答数 34 件の 2 割に相当する 7 件を示す。A1.利便性の追求の内容は、ネットショッピングが多く、美容院などの予約、移動中の情報収集、Line の利用などが含まれる。

表 4 A1.利便性の追求の回答例

番号	A1 利便性の追求の回答例
1	ニュースなどの閲覧を新聞やテレビなどでなく、通学時の電車内でスマートフォンを使っての Web 閲覧で行っている。また、電車の時刻なども、紙媒体の時刻表でなく、Web 検索で済ませている。
2	最近、外にでなくても様々なことができるようになりました。特に私はネットショッピングが便利だと思います。本や服を買うときなど様々な場面で活用しています。これはとても便利なことですが、外出する機会が減ってしまったり、思っていたものと違うものが届いたりするという欠点があります。
3	今まではお店に行かなければできなかったことが今はスマートフォンひとつで行えるようになった。スマートフォンがあればお店に行かなくてもネットショッピングや音楽を購入してダウンロードすることなどができるようになりとても便利になった。しかし、スマートフォンなどの電子デバイスにはバッテリーが切れてしまうなどのデメリットもある。
4	ネット通販が携帯、PC で簡単に利用できるようになり頻繁に利用している。欲しいものがみつきやすく、買いに行く手間がなく、発送も早いなど便利な点が多くあると思う。しかし画面上で簡単に買ってしまうため店で買い物をする時よりもお金を使っている感覚がなく、つい沢山買ってしまう。
5	利便性の追求が進んだことで影響を受けていることは、高校生の頃にスマートフォンを買い、使うようになったことで、情報を収集できる範囲が広くなり、調べる速度も飛躍的に上昇したことで、紙の辞書や参考書を使う機会がスマートフォンを使い出す前よりも少なくなっていく。しかし、スマートフォンで調べようとしても検索して出てきた以上の情報だけしか得られないことがたまにある。
6	わからない単語を調べるときに素早く調べられる電子辞書を使用したり、スマートフォンなどを使用してインターネットで検索したりすることが増えて紙辞書を使う機会が減っていった。紙辞書だと調べるのに時間はかかってしまうけれど、前後に載っている言葉も見られる、調べている過程での発見があるなどのメリットもたくさんあると思う。
7	インターネットの普及により、通販サイトで買い物も家の中にも様々なものの購入が可能になり、利便性の向上につながった。しかし、このことにより、外に買い物に出かけることが少なくなり、家に引きこもりがちになってしまう可能性がある。

スマートフォンを入手することで始まっている内容が多く、スマートフォンを利用して様々な Web サイトのサービスを受けることで生活が便利になっていると実感している。接続先は回答例以外も含めると Amazon をはじめとするネットショッピングが最も多い。しかし、その結果として、買い物に出かけなくなった、外に出なくなったとの回答につながっ

ている。その他には情報収集できる範囲が広くなり検索が容易になった、電車の時刻をリアルタイムで確認できるなどの記述があった。

4-2 A2.時空間の拡大

表5にA2.時空間の拡大の回答例を示す。A2の回答数16件の2割に相当する3件を示す。A2.時空間の拡大はメール、SNS、離れた人とのコミュニケーションが多く、他にネットショッピング、チケットの購入などが含まれる。

表5 A2.時空間の拡大の回答例

番号	A2 時空間の拡大の回答例
1	時空間の拡大により、遠く離れた人や、会ったことのないような人とコミュニケーションをとったり、一緒に仕事をしたりすることができるようになった。また、不特定多数の人に自分の考えやアイデアを公開し、支援を募るといったようなことができるようになり、同時に目の前にいない人の考えを知ることでもできるようになった。しかし、インターネットを利用しているすべての人が信用できるとは限らず、詐欺にあう、間違った情報を得てしまうということがあるので注意する必要がある。
2	LINEやTwitterなどのコミュニケーション手段により、多くの人といつでもやり取りができるようになり、友人との会話から情報の入手までスマートフォンで行うようになった。また、Amazonや楽天などのインターネットショッピングサイトにより、直接店に行くことなく、様々な商品を好きな時に買うようになった。これらに対して、前者に対しては、休日などに友人と直接会って話す時間を作る、情報を入手する際にテレビや雑誌なども利用するようにする、といった対応をする。後者に対しては、身近なところで買えるものや、服などの実際に確認しないとイケないものに関しては、直接店に行って買う、といった対応をする。
3	私が大きな影響を受けている二つの生活/行動様式の一つ目は、「時空間の拡大」である。私は、メールやSNS、Twitterを毎日の様に活用している。SNSでは遠く離れた友人と会話や通話等のコミュニケーションをし、Twitterでは好きな本やアニメの情報を仕入れたりしている。情報を仕入れたりするのは他でも代用することはできるが、友人とのコミュニケーションはSNSが一番だと考えているので、切って離す事は出来ないと考えている。なので、使用時の利便性と危険性を考えながら巧く使っていくと思う。

A2.時空間の拡大ではSNSの利用に関する回答が多かった。メール、Line、Twitterなどを使って、遠く離れた友人と会話や通話などのコミュニケーションが主体である。SNSを使った情報収集も含まれる。Amazonや楽天などのインターネットショッピングをA1.利便性の追求ではなく、A2.時空間の拡大と捉えた回答もあった。内容は同じでも人により重点を置き方が違うため異なった要素を選択することになる。

4-3 その他の様式

1位と2位合計数が1割以上(16件以上)の項目には、A1,A2項目以外に、A6.人間関係の希薄化、A5.膨大な情報利用、A4.情報の発信ができる行動/生活様式、A3.忙しい行動/生活様式が、28件、23件、20件、19件あった。

4-3-1 A6.人間関係の希薄化

表6にA6.人間関係の希薄化の回答例を示す。A6の1位と2位の合計回答数28件の1割に相当する3件を示す。A6.人間関係の希薄化28件はA1.利便性の追求42件に次いで2位となっている。

表6 A6.人間関係の希薄化の回答例

番号	A6 人間関係の希薄化の回答例
1	携帯電話の普及が進み、現代では連絡のやり取りにお互いの顔を合わせる必要性が著しく減っている。そのため、声でなく機械を通じて起こされた文字でのやり取りでは必然と相手と会うことが途絶えてしまう。よって、人間関係の希薄化に繋がっている要因になると考える。対応策として、やはり直接会うことが一番効果的だと考える。携帯のやり取りでは必要最低限しか会話をしないこともあり、希薄化につながると思う
2	今日スマートフォンが普及し、電話やメール、LINEなど様々な連絡手段が個人で簡単に利用できるようになり、気軽にたくさんの人々と顔を合わせなくても連絡を取り合えるようになった。しかし、そのために直接会話をする機会が少なくなってしまう。直接会話をしなくなると、コミュニケーションをとることが苦手な人間が増えたり、精神的にストレスを感じたりするという悪影響がある。そうならないためには、やはり顔を合わせて会話をする、コミュニケーションをとるというようなことが重要であると思う。
3	かつては電話で情報を伝達していたが、今では友人とのコミュニケーションや家族間の連絡でもメールやLINE等のSNSを使うようになり、さらに全く知らない人ともコミュニケーションが簡単に取れる。だが、文章で伝達すると相手に言いたいことがうまく伝わらないことがあり、中身によっては相手との仲が悪くなることもある。なので、友人と目を向き合って話をする事で相手の機嫌をうかがうことができ、話によっては新たな考えやアイデアが浮かんでくることもあるので積極的に話をしていきたい。

スマートフォンが普及し、電話やメール、LINEなど様々な連絡手段が簡単に利用できるようになり、お互いに顔を合わせて直接会話でコミュニケーションをとることが少なくなっている。直接会話をしなくなることで、コミュニケーションをとることが苦手な人や、精神的にストレスを感じたりする人が増え、それが人間関係の希薄化に繋がる要因になっているとの回答が多かった。コミュニケーションツールの発達が逆に対面のコミュニケーションを阻害していることになる。

4-3-2 A5.膨大な情報利用

表7にA5.膨大な情報利用の回答例を示す。A5の1位と2位の合計回答数23件の1割に相当する2件を示す。

表7 A5.膨大な情報利用の回答例

番号	A5.膨大な情報利用の回答例
1	自分がこの中で一番影響を受けているのは、5:膨大な情報利用だと思う。情報通信技術の発達により、以前よりも情報の入手がしやすくなった。新聞や本の紙媒体のものだけでなく、インターネット上の情報もニュースサイトや動画などにより、以前よりも制限など少なく、多くの情報を様々な形で入手できるようになったと考えられる。また、インターネットの情報は紙媒体の情報に比べ、更新があるため、求める最新の情報がよく入手しやすいこともあり、自分はインターネットでの情報をよく利用する。
2	インターネットの普及により、いつでもどこでも最新の情報、或いは過去の情報を誰でも簡単に調べることが可能となった。パソコンや携帯電話・スマートフォンひとつで自分の調べたいことについて瞬時に、そして大量の情報を得ることができる。新聞や書籍などを用意して調べるのに比べて、非常に効率よく大量の情報を集められる。しかし、その一方で、インターネットの情報は新聞や書籍に比べて信憑性に欠けるといふ欠点がある。十分な裏付けがされていなかったり、中には故意で誤った情報を発信したりする者もいるので、インターネットで得られた情報をすぐに鵜呑みにするのは危険である。だが逆に新聞や書籍の情報も必ずしも正確とは限らない。現在の正しい情報と異なり、古い誤った情報のまま記されていたり、筆者が偏った考え・情報で書いていたりする可能性もある。そのため、「インターネットだけ」、「新聞や書籍だけ」ではなく、身の回りの様々な手段を駆使し、様々な方向から情報を集めることが正確な情報を集めるうえで重要になるだろう。

パソコンやスマートフォンひとつで瞬時に、そして大量の情報を得ることができる。新聞や書籍に比べて、非常に効率よく大量の情報を様々な形で入手できる。インターネットの情報は紙媒体の情報に比べ更新があるため最新の情報が入手できる。反面、インターネットの情報は新聞や書籍に比べて信憑性に欠けるといふ欠点があるので得られた情報をすぐに鵜呑みにするのは危険である。以上のような回答があった。膨大な情報の利用そのものと同時に信頼性の問題点について触れた内容が、特に2番目に選択した回答に多かった。

4-3-3 A4.情報の発信ができる行動/生活様式

表8にA4.情報の発信ができる行動/生活様式の回答例を示す。A4の1位と2位の合計回答数20件の1割に相当する2件を示す。

表8 A4.情報の発信ができる行動/生活様式の回答例

番号	A4.情報の発信ができる行動/生活様式の回答例
1	TwitterやFacebookなどを始めとしたSNSが広く普及したことにより、誰もが簡単にネット上に情報を発信できるようになった。しかし、ネット上では匿名で発信することができてしまうため悪質な情報も安易に発信できてしまう。そのため、ネット上で情報を発信していく際には注意が必要である。自分が発信した情報が及ぼす影響などをしっかり考慮し、発信しても良い情報であるのかを判断していかなければならないと考える。
2	スマートフォンなどに触れるようになる前は家族の間、友達同士など身近な人との交流しかなく、情報の発信の場はごく限られていましたが、そういうものに触れるようになってからはLINEやTwitterなどのソーシャルメディアで不特定多数の人に情報を発信できるようになり、それが楽しくなりました。しかし、これにより自分の時間が削られていっているという問題も少なからずあり、適度な距離感を保って利用することが重要だとも思うようになりました。

スマートフォンなどに触れるようになり Twitter, Line, Facebook をはじめとする SNS やゲームの投稿サイトなどで簡単にネット上に情報を発信できるようになった。家族、友達など情報の発信の場はごく限られていたが、不特定多数の人に情報を発信できるようになり、それが楽しくなった。自分が発信した情報が及ぼす影響などをしっかり考慮し、発信しても良い情報であるのかを判断している。自分の時間が削られないよう対応しているなど、具体的な経験を通して慎重な対応が必要という認識もできているという回答が複数あった。

4-3-4 A3.忙しい行動/生活様式

表9にA3.忙しい行動/生活様式の回答例を示す。A3の1位と2位の合計回答数19件の1割に相当する2件を示す。

表9 A3.忙しい行動/生活様式の回答例

番号	A3 忙しい行動/生活様式の回答例
1	暇な時間さえあれば常にスマートフォンを手に握っていて、youtubeなどの動画サイトを長時間見たりして時間を使ったり、LINEなどのSNSをすぐに返信したりしている。時間を使いすぎてしまうと、やろうと思っていたことができなくなったり、睡眠時間が減ったりしてしまう、勉強時間がなくなってしまうなどのデメリットもたくさんある。対策として、スマートフォンの使用時間を決めることと、暇な時間をバイトや遊びの時間に使うと良いと思った。
2	空き時間に携帯電話などいじる癖がついてしまい休むことがなくなっていることだと思う。また、休みの日など活用して友人と出かけたり、買い物をしたりするなどして休む時間が少なくなったと感じている。対策としては、自分で携帯電話などを触る時間などを制限して一日に使える時間を制限することで自分の時間を確保できると思う。また休みの日は、家でゆっくり小説などを読むなどして時間を過ごすなど自分で時間を作ることも必要であると感じる。

A3.忙しい行動/生活様式はスマートフォンの利用によるものが大半であった。常にスマートフォンを手に握っていて、空き時間もスケジュール管理を行っている。SNS（Line, Twitter, Instagram など）の利用、YouTube 閲覧、メールの確認などに時間を取られ忙しい生活になっている。他にソーシャルゲーム、分単位の活動ラインアプリの利用などが挙げられていた。ラインについては、早急な連絡の必要がない雑談に利用できるが、雑談に取られる時間が携帯電話を利用する前より長くなり、必要な時間に割ける時間が少なくなって困まるとの回答があった。

5. 情報通信技術よりもたらされた“B.個人の情報処理様式”

表2で選択された上位の様式の件数は、B1 選択行動、B5 ランキング情報の利用が、37件、17件で、全体 n=81 の2割（16件）以上を占めた。

5-1 B1.選択行動

表10にB1 選択行動の回答例を示す。B1の回答数37件の2割に相当する7件を示す。

表 10 B1.選択行動の回答例

番号	B1 選択行動の回答例
1	レポートを作成する際、インターネットを使う人がほとんどです。なぜかという検索すれば知りたい情報がすぐ知れるからです。とても便利なことですが、書いてあることとまとめるだけで自分の意見は反映されていないものになってしまったりします。インターネットの発展は人間の考える時間を減らしていると思います。なので、インターネットだけではなく本や新聞など様々な媒体を自分の意見を反映させながらまとめるようにする必要があると思います。
2	多くの人はある問いに関することをネットで検索するときネットから情報を得るのではなく答えを得ようとしている。そのため、課題などの場合書いてあることが全く同じことや、非常に類似していることも多々ある。ネットから情報ではなく答えを得ることは自分たちから考える力を失わせることになり、言われたことしかできない人になってしまう。そのため、自分にとって必要な情報を集めその情報をもとに答えを導き出すことが重要である。
3	私が普段何か調べ物をするときは、インターネットをよく使っている。Wikipedia などから、調べたい情報がまとめてあるサイトを活用したりしている。なので、インターネットに書いてあることを、そのまま利用している。調べたい情報がまとめてあるので自分で考える必要がなくなった。しかし、インターネットに掲載している情報は、全てが正しい情報とは限らない。私が、インターネットを利用して調べものをするときには、正しい情報かどうかを判断して活用する必要がある。これからは、まず自分で考えることをしたいと思う。もし、分からなかったら、インターネットだけを使うのではなく、図書や文献なども活用して、正しい情報かどうかを確かめながら調べていきたいと考えている。
4	自分が選択行動からどんな影響を受けているかと言うと、分からないことがあったら毎回、インターネットで調べ、情報を得て考えることを放棄してしまうことがあります。これにより、その情報が本当かどうかを吟味せず鵜呑みにしてしまうことがあります。これの対策方法は、インターネットで調べても自分で本当かどうか考えたり、人に聞いてみたり、再度別のサイトで検索をかけてみたりすれば偽の情報を信じずに済むと思います。インターネットが普及している世の中なので私たちはインターネットに頼りがちですが本を読んだり、人に聞いたりして知りたい情報を得ていくのも重要だと思いました。
5	化粧品を購入する際、必ずインターネットでその商品の口コミや評判を見てから購入している。買いに行くときに自分でどれがいいか考えたりせずにインターネット上の情報をそのまま利用し、店頭に行くときには何をかうかほぼ決まっている状態。便利だが、それで何度も失敗したのもう少し自分で考えて購入するようにしたい。また、一つのサイトの情報を見てそれで満足してしまっているためもっと多くの情報源から情報を得るようにしたい。
6	私は、分からないことがあるとすぐにインターネットで調べてしまいます。そのため私自身で考えることがなくなってきている。インターネットにある情報を選択することで自分の意思決定をしてしまうことがある。インターネットから情報を得ることは簡単ではあるが、まず自分で判断し、物事の意思決定をするようにすることが大切だと考える。インターネットにある情報を選択することよりも、まず自分で思考をすることを意識していきたい。
7	"受けている影響としてレポートの調べ事や自分の気になることを Web で検索する際、1つのサイトの情報だけを信用して安易に決めつけてしまうことがあります。インターネット上ものは信憑性に欠けることもあると分かっているが考えることを放棄してその情報だけを鵜呑みにしていました。対応策として、1つのサイトだけを見て判断するのではなく複数の情報を照らし合わせて内容を正しく理解することがとても重要だと思います。"

B1 選択行動には、インターネットにある情報を選択し意思決定する、SNS で話題になっている商品をつい買ってしまふ、自分で考えているわけではなく最初から決定しているものを選択して同一の行動をする、インターネットに書いてあることをまとめるだけのレポートは作成できるが自分の意見は反映できていない、などの情報処理様式が含まれていた。

“ネットから情報を得るのではなく答えを得ようとしている”、“インターネットに書いてあることを、そのまま利用しているの自分で考える必要がなくなった”という記述からは、

自分で考えていないことに問題があることに気付いているけれども、日常の情報処理様式に反映できていない実態を示していると思われる。

5-2 B5.ランキング情報の利用

表 11 に B5.ランキング情報の利用の回答例を示す。B5 の回答数 17 件の 2 割に相当する 3 件を示す。

表 11 B5.ランキング情報の利用の回答例

番号	B5.ランキング情報の利用の回答例
1	自分は 5:ランキング情報の利用の影響を受けていると思う。1:選択行動と同じように、考えることをやめ、受身の状態となっている。ランキング上位の情報は多くの人が利用しているだろうと判断し、勝手に信頼してしまう。そのことが他者と同じような判断やものづくりになり、独創的なものづくりができない要因の一つになるかもしれない。それに向き合う態度としては、1:選択行動と同じように、情報をただ受身で使うだけでなく、考え、自身の意志などで必要・不必要など判断することだと思う。
2	ランキング上位のものに注目し、ついつい買ってしまったアプリをインストールすることは自分も多々あります。ランキング上位だと興味が出てきて手に入れたいなって思ったり、1回やってみようとか思ったりしてしまいます。自分ではあまり好ましくないなと思っていても、多くの人が同一の判断をした場合、そっちに流されてしまいます。評価が高いと判断し、買ってしまったりするのもよいと思うが、自らの価値基準により判断を停止せずに、自分の考えをしっかりとって行動することが大切だと思う。
3	"電化製品を選ぶ際などに、ランキングサイトや商品比較サイトを参考にするとより上位のもの程良いものだと思ってしまう。そのため、上位の商品だけに目が行き、それ以外の商品を見ることが少なくなっている。また、その商品における様々なメリットやデメリットを、自分で考える機会が減っている。これに対しては、自分が欲しいと思うものの条件を書き出し、それと照らし合わせながら、条件に合うような商品を探す。そして、必要に応じてランキングサイトなどの意見を取り入れるという対応をする。"

B5.ランキング情報の利用では、商品を選択する時ランキング上位の商品を参照する、商品の購入やサービスを受ける際に有用な判断材料とする、ランキングにより物にたいする考え方が変わったり、購入に結び付いたりする、ランキング上位の商品は信頼性が高く安全に買うことができる、といった情報処理様式が含まれる。ランキング情報の利用は 1 番目の項目としての回答件数は 17 件であるが、1 番目と 2 番目の項目の合計回答件数は 51 件と最も多かった。ランキング情報の利用は日常生活で知らず知らずのうちに最も良く利用している情報行動であると考えられる。

6 社会的な要請から情報通信技術が実現した C.“新しい社会様式”

表 3 で選択された上位の様式の件数は、C1.効率を優先した社会、C2.管理社会、C3.監視社会で、16 件、19 件、21 件と、全体 n=81 件の 2 割 (16 件) を超えていた。A 生活/行動様式と、B 情報処理様式の回答と比較すると特定の項目に集中する傾向は弱かった。

6-1 C1.効率を優先した社会

表 12 に C1.効率を優先した社会の回答例を示す。C1 の回答数 16 件の 2 割に相当する 3 件を示す。

表 12 C1.効率を優先した社会の回答例

番号	C1.効率を優先した社会の回答例
1	効率を優先した社会の問題点は、効率を優先した結果、とても忙しく休みが少ない社会になっていることである。あまりにも効率を優先していると、ずっと働きっぱなしの社会になってしまい、休む時間を少なくして働いてしまっていると、そのうち、働いている人の体に限界が来てしまう可能性がある。そうなってしまった人は入院などで働けない期間ができることにより、勤めていた会社は生産性が落ちてしまい、効率が悪くなってしまうと考えられる。そのため、適度に休みをとった方が長い間働くことができ、将来的に効率はよくなるのではないかと考えている。
2	効率化されていく社会は、後戻りはできないと思う。効率てきな社会には効率をよくするための便利なものがあり、それを知ると手放したくないと思う。さらに利益も多く出やすくなる。人は欲があるため、より多くのものをもとめ、もっと効率がいいものを求める。ただより効率がいいものに人、全員が対応できると思えない。効率がいいといっても、すこし何かがあっただけで多く損することになるものもあると思う。便利なものを手放したくないので、効率のいい社会に対応できる知識や思考を身に着けたいものだ。
3	コンビニやスーパーなど 24 時間営業の店を当たり前のように感じてしまうことから分かるように、社会では効率化が求められている。そして効率化を求めすぎてしまうために、高い質で正確にできる人や性格、長所を生かせる人でも時間がかかるからという理由で切り捨てられてしまう。それはおかしなことだと思う反面、自分も服や食べ物を買うときは質の良い高級なものよりも、効率的に作ることで安く抑えたものを買ってしまうかもしれない。短時間でできることも大切ではあるが、ほかの良さも見つめなおしていくことが大切だと思う。

C1.効率を優先した社会には、勤務体系が 24 時間営業になった、効率を優先すると利益が出る、労働時間の削減などにつながり会社にとっても従業員にとっても良い事である、機械による効率化の向上が進んでいる、など働き方に関する内容が多かった。逆に、とても忙しく休みの少ない社会になっている、質の高さは評価されないなど負の内容も同程度あった。学生は仕事の実体験に乏しいため抽象的な表現が多かった。

6-2 C2.管理社会

表 13 に C2.管理社会の回答例を示す。C2 の回答数 19 件の 2 割に相当する 4 件を示す。

表 13 C2.管理社会の回答例

番号	管理社会の回答例
1	どのサイトでもパスワードを同じものに設定してしまう。・パスワードを忘れないために、簡単で分かりやすいものに設定してしまう。その結果、第三者にパスワードを解読され、不正利用やなりすましが発生してしまう。大学生になって、ネット会員などで ID・パスワードを設定し使う機会が増えてきた(自己管理をするようになった)ので、ID・パスワードの保管方法に気を付けたり、変更時を把握する(こまめに換えすぎるのもよくない)など、ID・パスワードをぞんざいに扱わないよう自分で気を付ける。
2	私が授業で最も興味を持った社会様式は、「管理された社会」である。管理社会は現代では、防犯カメラの設置によって当たり前となりつつあるが、今後がどこまで管理が進むのかが気になる。管理社会はプライバシーが侵害される可能性が高くなるが、管理によるメリットの方が高いと思う。個人情報の流出対策に犯罪件数の減少等様々な面でのメリットが高いと思う。オリンピックが近くっているので、ほどほどに諦めを持ち、安全性を高めた方が良いと考える。
3	管理社会化により、自分の個人情報や銀行口座等を全て ID とパスワードで情報を管理出来るようになり、アナログでの情報漏洩等は減ったように思われる。しかし、社会はデジタル化も進み、新たな情報漏洩の危険性が生まれている。この危険性から私達は、私達の情報を守る為に定期的にパスワードの変更をしたり、情報漏洩の原因になるような事(例えばインターネット、メールの利用時に不注意により、パソコンにウィルスが侵入してしまう等)を避けるように気を付けることが大事であると考えている。
4	ほとんどのサイトやサービスを利用するときにはアカウントなどを作る場合が多くなってきた。そこで ID とパスワードは必須になってくるので、自分で記憶したり管理したりすることが必要。しかし、それはアカウントを作成する手間や、ID やパスワードを記憶するという手間が出てくる。しかし、サイトやサービスの情報を管理するにはコンピュータのほうが確実にできるので、そのような手間は多少我慢して付き合っていく必要がある。

C2.管理社会の回答例では、ID とパスワードの管理に関する内容が最も多かった。どのサイトでもパスワードを同じものに設定してしまう、簡単で分かりやすいものに設定してしまう、こまめに換えすぎるのもよくないなどであった。C1.効率化を優先した社会の回答と異なり個人の経験に基づいた具体的な内容が多かった。他に監視カメラや情報漏洩に関する内容も含まれている。

6-3 C3.監視社会

表 14 に C3.監視社会の回答例を示す。C3 の回答数 21 件の 2 割に相当する 4 件を示す。

表 14 C3.監視社会の回答例

番号	監視社会の内容
1	監視といえば真っ先に監視カメラが思い浮かぶかもしれないが、現代では私たちが思っている以上に監視している対象が増えていると感じる。今はネット上の会話のやり取りや SNS までも監視されている。もちろんある程度の監視は必要だと思うが必要以上の監視はプライバシーの面でも悪影響をおよぼすかもしれない。監視する側も監視される対象の尊重し過度な監視は控えることが大事になると思う。
2	監視にはメリットがあります。それは犯罪防止や証拠など間違いをすばやく見つけられるところです。ですがデメリットもあり、常にみられている状態になってしまうことです。最近は監視社会と言われているように、いたるところに監視カメラがあります。これはプライバシーの侵害になってしまっているのではないかと問題点があります。私は、確かに監視は犯罪防止の大きな役割があるとおもうので、その映像という情報をどのように使用し守っていくかを考える必要があると思います。
3	現代では多くの場所に監視カメラが設置されており、あらゆる場所で監視をされている社会である。このことで、監視されているということに意識を持ち、不正や犯罪が減ることが考えられる。しかし、プライバシー侵害の恐れがあり、個人情報の不正利用が起こる可能性がある。そのために情報の管理を徹底し、外部に漏れないようにしなければならない。私たちは、常に監視カメラによって監視されているということを意識し、もし監視されていても問題のない行動をする必要がある。
4	2012年より中国で行われている高性能監視カメラによる国土全体の監視システム「天網」は、世界的に見ても画期的であり、同時に問題視されたプロジェクトである。「天網」が扱う監視カメラは極めて高い技術を有しており、カメラがとらえた物体の特徴を瞬時に判別し、記録する機能が備わっている。服装や髪型、乗っている車の車種や番号を無差別に記録するこのカメラは監視下に置かれた住民からは「プライバシーを損なう」として不満の声が次々と上がったと言う。現在も続くこの監視とプライバシーの問題は、他国でも話題となったが、監視社会の構築には、個人の生活にどこまで介入すべきなのだろうか、と言う線引きを確実にすることが必要なのである。

C3.監視社会の回答例には、過度な監視は控えることが重要、情報をどのように使用しプライバシーを守っていくか考えることが必要、監視されていても問題のない行動をする必要がある、個人の生活にどこまで介入すべきか線引きを確実にすることが必要という内容が示された。回答例には具体的で肯定的な回答が多かった。監視カメラの必要を是認したうえで、全員受け入れを認めるとの意見を記述している。しかし認める条件については、認める、認めざるを得ない、ある程度は必要、監視されていることを前提にするなど、監視そのものに反対ではないが、多くの意見が認められた。プライバシーを守るため収集した情報をどう使用するかを事前に明示して、システムを管理・運用する必要があるという点は多くの意見に共通した。

7. クロス集計

7-1. “A.新しい生活様式および行動様式”と“B.新しい情報処理様式”のクロス集計

表 15 に、“A.新しい生活様式および行動様式”と“B.新しい情報処理様式”の選択順位 1 位の様式のクロス集計結果を示す。表 16 に、選択順位 1 番目と 2 番目の合計数のクロス集

計結果を示す。情報通信技術が引き金となる個人から始まる新しい情報処理様式は、結果として個人の集合体としての社会に新しい生活様式および行動様式を作り出しているはずである。

表1、表2で示したように、“A.新しい生活様式および行動様式”では A1.利便性の追求と A2.時空間の拡大の回答数が多く、“B.新しい情報処理様式”では B1.選択行動と B5.ランキング情報の利用の回答数が多かった。選択順位1位の様式のクロス集計を示した表15の結果でも、B1×A1, B1×A2, B5×A1, B5×A2の組み合わせが回答数上位（6件以上）となった。“A.新しい生活様式および行動様式”と“B.新しい情報処理様式”の関連を明らかにするためこの4ケースについて詳しく考察した。

表15 “A.新しい生活様式および行動様式”と“B.新しい情報処理様式”のクロス集計の結果
(選択順位1位)

		B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	
		選択行動	画一化情報の利用	思考・情報の断片化	皮相的な判断	ランキング情報の利用	外付け脳	人工知能	ライフログ	計
A1	利便性の追求	17	2	3	0	7	2	3	0	34
A2	時空間の拡大	8	0	1	1	6	0	0	0	16
A3	忙しい生活	4	3	1	0	2	1	0	0	11
A4	情報の発信	1	1	2	1	1	1	0	0	7
A5	膨大な情報利用	4	1	0	0	0	0	0	0	5
A6	人間関係の希薄化	3	0	0	0	0	0	3	0	6
A7	脳機能の拡大	0	0	1	0	0	0	0	0	1
A8	生涯学習	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A9	考える時間の増加	0	0	0	0	1	0	0	0	1
A10	クラウドソーシング	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	37	7	8	2	17	4	6	0	81

表16に選択順位1位と2位の回答を合計したクロス集計を示す。表15と同様の傾向を示したが、B6.外付け脳、A5.膨大な情報利用、A6.人間関係の希薄化の回答数が選択順位1位の回答数に比べ4倍以上になっている。これらの様式は強く意識せずに日常的に受け入れられている様式の可能性がある。

表 16 “A.新しい生活様式および行動様式” と “B.新しい情報処理様式”のクロス集計の結果
(選択順位 1 位と 2 位合計)

		B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	
		選択 行動	画一 化情 報の 利用	思考・ 情報 の断 片化	皮相 的な 判断	ラン キン グ情 報の 利用	外付 け 脳	人工 知能	ライ フ ロ グ	0
A1	利便性の追求	18	2	3	0	13	2	4	0	42
A2	時空間の拡大	8	1	1	1	13	1	1	0	26
A3	忙しい生活	5	5	1	0	3	5	0	0	19
A4	情報の発信	1	1	2	3	7	5	1	0	20
A5	膨大な情報利用	6	2	0	1	7	6	1	0	23
A6	人間関係の希薄化	3	1	1	0	6	7	9	1	28
A7	脳機能の拡大	0	0	1	0	1	1	0	0	3
A8	生涯学習 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A9	考える時間の増加	0	0	0	0	1	0	0	0	1
A10	クラウドソーシング	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	41	12	9	5	51	27	16	1	162

7-2. 回答の多かった 2 カテゴリーの組み合わせ

表 15 の主要なクロス点の回答結果を示す。具体的理解が深まるよう選択順位 1 位の同一学生による回答例を表に示した。

7-2-1 B1.選択行動と A1.利便性の追求

表 17 に B1.選択行動と A1.利便性の追求の両方で選択順位 1 位の回答例を示す。同一学生による B1,A1 の選択順位 1 位の回答例である。選択行動はスマートフォンの利用が背景となっている場合が多かった。わからないことがあるとネットで調べる、使える情報を選択して利用する、自分で考えなくなるといった情報処理様式が、結果として利便性の追求になっている。店に行かなくても買い物のできるネットショッピングが利便性の追求のなかでも最も支持されていた。

表 17 B1.選択行動と A1.利便性の追求 (同一学生による選択順位 1 位の回答例)

番号	B1.選択行動	A1.利便性の追求
1	私は、分からないことがあるとすぐにインターネットで調べてしまいます。そのため私自身で考えることがなくなってきた。インターネットにある情報を選択することで自分の意思決定をしてしまうことがある。インターネットから情報を得ることは簡単ではあるが、まず自分で判断し、物事の意味決定をするようにすることが大切だと考える。インターネットにある情報を選択することよりも、まず自分で思考をすることを意識していきたい。	今現在では、店に行かなくてもインターネットで商品を購入することが出来る。私自身も買い物をする時は Amazon を頻繁に利用している。店に行かなくても商品を購入することができるので、時間がかからないし簡単に商品を手に入れることができる。しかし、衣類や靴などはサイズを実際に測ることができないので、自分に合ったサイズが来ない可能性があるので注意するべきである。ネットショッピングでは、実際に手にとって自分で確認することができないので、他の購入者の評価を参考にして購入するかどうかを決めようと思う。

7-2-2 B1.選択行動と A2.時空間の拡大

表 18 に B1.選択行動と A2.時空間の拡大の両方で選択順位 1 位の回答例を示す。同一学生による B1, A2 の選択順位 1 位の回答例である。わからないことがあるとネットで調べ、使える情報を選択して利用するため、自分で考えなくなる。このスマートフォンの利用が背景となっているネットに依存した考えない B1.選択行動となり、Line, Twitter などの SNS による、遠く離れた友人と会話や通話などで広く浅いコミュニケーションをとることで、A2.時空間の拡大に繋がっていると考えられる。インターネットショッピングを A2.時空間の拡大と捉える回答もあった。

表 18 B1.選択行動と A2.時空間の拡大（同一学生による選択順位 1 位の回答例）

番号	B1.選択行動	A2.時空間の拡大
1	自分が選択行動からどんな影響を受けているかと言うと、分からないことがあったら毎回、インターネットで調べ、情報を得て考えることを放棄してしまふことがあります。これにより、その情報が本当かどうかを吟味せず鵜呑みにしてしまふことがあります。これの対策方法は、インターネットで調べても自分で本当かどうか考えたり、人に聞いてみたり、再度別のサイトで検索をかけてみたりすれば偽の情報を信じずに済むと思います。インターネットが普及している世の中なので私たちはインターネットに頼りがちですが本を読んだり、人に聞いたりして知りたい情報を得ていくのも重要だと思いました。	時空間の拡大によってどのような影響を受けているかと言うと、現代は、インターネットがある便利な世の中なのでいつでもどこでも電話が出来たり、メールのやり取りが出来たり、ネットショッピングが出来たりするのでスマホやパソコンに頼りきった生活になってしまいます。これにより外に出る機会が減ったり、人と会話する機会が減ったりしてしまうという悪い影響が出てきます。これを改善するには、たまにはスマホを手放し、外に出て買い物をしたりすることが改善するための一歩だと思います。私たちは今、便利な世の中にいるのでスマホに頼りすぎないように生きていく必要があると思います。

7-2-3. B5.ランキング情報の利用と A1.利便性の追求

表 19 に B5.ランキング情報の利用と A1.利便性の追求の両方で選択順位 1 位の回答例を示す。同一学生による B5, A1 の選択順位 1 位の回答例である。

商品を選択する時ランキング上位の商品を参照する、ランキング上位の商品は信頼性が高く安全に買うことができる、あるいは Google 検索で上位のサイトは無意識に選択している。この B5.ランキング情報の利用が、Amazon や楽天のネットショッピングの A1.利便性の追求に繋がっている。買い物は全て自宅でできることから対面で話す機会が減ると考えている学生が存在する。

表 19 B5.ランキング情報の利用と A1.利便性の追求
(同一学生による選択順位 1 位の回答例)

番号	B5.ランキング情報の利用	A1.利便性の追求
1	<p>様々な商品やサービスを提供している会社などを第三者がランキング形式で評価しているサイトなどは、自分がその商品を購入するときや、サービスを受ける際の判断材料としてとても有用なものであるが、そこに書かれているものはあくまでも一部の層の意見や、個人の感想でしかなく、それだけが正しいとは限らないが、一部の意見や感想だけで判断してしまうことが多い。この問題には、あくまで参考程度にとどめることが大切で、やはり自分でまずは試してみるものが大切だと思う。</p>	<p>Amazon や楽天市場等の通販サイトを利用する人は多く、通話のためのツールだった携帯も、今では通話だけでなくインターネットも利用できるようになり、複雑な操作や高度な知識がなくても手軽に使用できるようになって人々の暮らしはより便利な方へと進歩し続けているが、買い物は自宅ですべてできるため実物を手に取ってまじかで見ることができず、他人との会話はすべてネット上だけになり、正面を向き合って話す機会が減っていく一方である。この問題を解決するには、店舗で買えば何割引きになるなど直接店に来るメリットを作ったり、集まって話したりする場を整えたりすることが必要だと思う。</p>

7-2-4. B5.ランキング情報の利用と A2.時空間の拡大

表 20 に B5.ランキング情報の利用と A2.時空間の拡大の両方で選択順位 1 位の回答例を示す。同一学生による B5, A2 の選択順位 1 位の回答例である。

ランキング情報の利用には、旅行の目的地の決定、利用する飲食店の決定、料理するレシピの選択、ゲームの購入、電化製品の購入、アプリのダウンロード、書籍の購入などが含まれる。A2.時空間の拡大には、テレビの録画が自由にできるようになった、SNS の普及により距離に関係なくいつでもコミュニケーションがとれるようになった、スマートフォンでニュースや Twitter から大量の情報を必要なときに入手できるようになった、店に行かなくても買うことができるようになったとの内容が含まれている。

B5.ランキング情報の利用は、スマートフォンの利用が背景となっている B1.選択行動よりも考えない、かつネットに依存の行動様式ともいえる。考えない延長上に、Line, Twitter などの SNS による広く浅いコミュニケーションが A2.時空間の拡大を実現しているとも理解できる。B5 と A2 の間に一見因果関係は認められないが、自分で考えずに楽な生活様式を実現したいという共通点が存在すると考えることもできる。

表 20 B5.ランキング情報の利用と A2.時空間の拡大
(同一学生による選択順位 1 位の回答例)

番号	B5.ランキング情報の利用	A2.時空間の拡大
1	<p>電化製品を選ぶ際などに、ランキングサイトや商品比較サイトを参考にするとより上位のもの程良いものだと思ってしまう。そのため、上位の商品だけに目が行き、それ以外の商品を見ることが少なくなっている。また、その商品における様々なメリットやデメリットを、自分で考える機会が減っている。</p> <p>これに対しては、自分が欲しいと思うものの条件を書き出し、それと照らし合わせながら、条件に合うような商品を探す。そして、必要に応じてランキングサイトなどの意見を取り入れるという対応をする。</p>	<p>LINE や Twitter などのコミュニケーション手段により、多くの人といつでもやり取りができるようになり、友人との会話から情報の入手までスマートフォンで行うようになった。また、Amazon や楽天などのインターネットショッピングサイトにより、直接店に行くことなく、様々な商品を好きな時に買うようになった。これらに対して、前者に対しては、休日などに友人と直接会って話す時間を作る、情報を入手する際にテレビや雑誌なども利用するようにする、といった対応をする。後者に対しては、身近なところで買えるものや、服などの実際に確認しないとイケないものに関しては、直接店に行って買う、といった対応をする。</p>

8.大学生の情報行動から見た生活様式と社会様式の変化

表 15,表 16 のクロス分析の主要なクロス点に位置する回答内容をもとにマインドマップを作製した。図 2 に情報通信技術がもたらした大学生の情報文化を示す。図 2 の左から、学生が使用している主な情報通信技術、2 列目に情報通信技術をベースに成立する個人の情報行動、3 列目に情報行動からもたらされた新しい行動様式や生活様式、最後 4 列目に情報文化として新しい様式の具体例を示す。情報通信技術は PC を使う技術も含まれているが主体はスマートフォンをベースとする ICT, 情報通信技術である。

8-1 マインドマップ

表 15, 表 16 に示したクロス集計の結果を、数値だけではなく、実際に使用された用語を加えてマインドマップとして整理した。結果を、情報通信技術がもたらした大学生の新しい情報文化として図 2 に示す。情報通信技術がもたらした主な情報処理様式はスマートフォンを使ったインターネット環境で実行できる、選択行動と、ランキング情報の利用であった。そして、情報通信技術がもたらした主な生活様式および行動様式は、利便性の追求と時空間の拡大であった。この 4 つの要素の関連を柱にしてマインドマップを作製した。

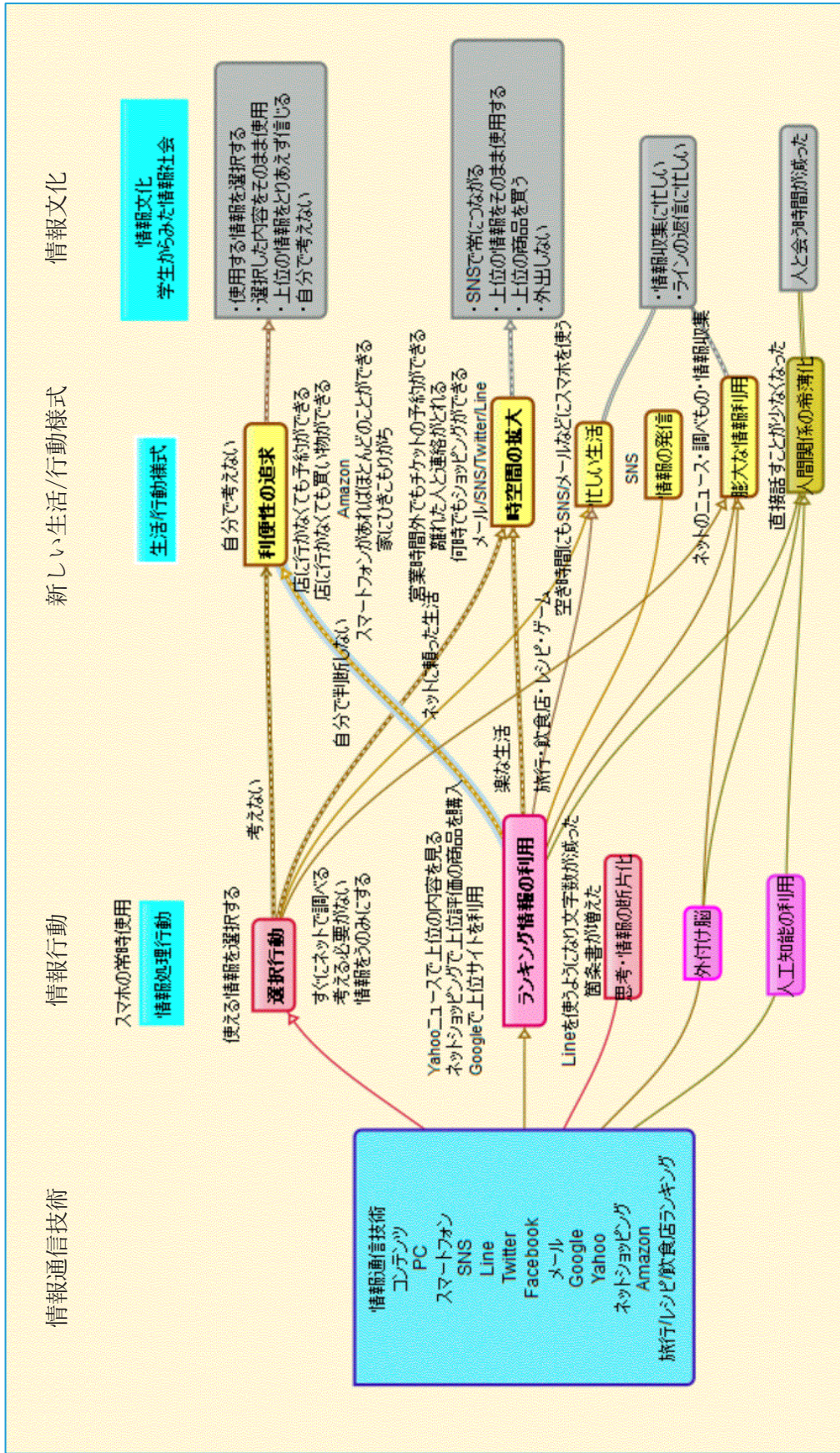


図2 情報通信技術がもたらした大学生の情報文化

8-2 情報通信技術によりもたらされる“新しい情報文化”

情報通信技術がもたらした大学生の情報文化のマインドマップを参考に、情報通信技術によりもたらされる可能性の高い“新しい情報文化”を以下に示す。全て論理的に提示できる概念ではないが、学生の調査項目における回答内容をベースに作成した仮説である。この報告には触れていないが情報検索課題の記述内容も一部参考にした。“新しい社会像”は個人に与える影響が広範で大きいと思われる順に示した。スマートフォンによるネットへのアクセス環境が高校入学時に整っており、スマートフォンからインターネットへ常時接続可能な環境にあること、そしてスマートフォン入手後から情報通信技術を基礎から学べる機会はなく、学生個人の自主学習に大きく依存しているという現状に留意した。

1) 情報を使った価値の創造が十分でない情報文化（生活／行動様式）

インターネットが普及する以前、情報社会は工業社会との対比においてその概念が説明されていた。例えば付加価値の50%以上が情報により生産される社会であると当たりまえのように説明されてきた。しかし大学生の現状を見ると、選択行動、ランキング情報の利用など利便性を優先した様式が主体で、想定された情報を基に個人が価値を生産する様式と異なる“新しい情報文化”が想定される。

2) 考えない情報文化（生活／行動様式）

複数の情報から新しい概念が作れない、複数の情報をまとめる習慣がない、複数の情報をまとめようとしない、まとめる必要がないといった情報処理様式が浸透しつつある。複数の情報をまとめ個人の知識を高めることは、情報によって新しい価値を創造するための必須の過程であるが、実態は知識ベース社会のコンセプトと相反する方向に向かっている“新しい情報文化”が想定される。知識とは将来一般的に使うものという概念を理解し、自分で考えざるを得ない状況に直面した時に適切に対処できる知識が重要であることを自覚しておくことが必要である。

3) 最も使えそうな情報を選択しそのまま使用する情報文化（生活／行動様式）

収集した複数の情報を使用して新しい価値を創造できるようになるのが情報社会、知識ベース社会のコンセプトであった。考えない社会の延長上に選択行動、ランキング情報の利用といった情報を選択して利活用する“新しい情報文化”が想定される。価値の創造というコンセプトと最も異なる点は、情報を利用する個人が自分で知識を獲得し、情報に基づいて判断しないことである。

4) 利便性を追求する情報文化（生活／行動様式）

情報通信技術により実現した、膨大な情報収集、ランキング情報の利用、情報の選択利用、ネットショッピング、ネットバンキングなど、利便性を追求する“新しい情報文化”が想定さ

れる。自分で考えない行動様式と同様の傾向が増加し、情報による価値の創造は社会全体の様式に結び付いていない。

5) 外出しない情報文化（生活／行動様式）

情報通信技術の発展によりコミュニケーションも買い物もスマートフォン環境で実現できるようになった。利便性の追求と時空間の拡大の恩恵を受け時間に余裕ができてはいるはずだが、結果として外出しなくなり家にいる時間が長くなる“新しい情報文化”が想定される。

6) 時空間の拡大を伴うコミュニケーションが可能な情報文化（生活／行動様式）

SNS を利用し時空間の拡大を伴うコミュニケーション活動が日常生活に取り込まれ、遠く離れた人とアイデアを交換したり一緒に仕事をしたりすることができる“新しい情報文化”が想定される。スマートフォンを常時携帯していることが前提となるが、SNS は広く浅いやり取りになり、かつ信頼性にも注意を払う必要があるので、直接会って話をするコミュニケーションとの両立が必要になる。

7) ネットワークでつながっているが十分なコミュニケーションは成立していない情報文化（生活／行動様式）¹⁹⁾

フェイス to フェイスのコミュニケーションが少なくなり、SNS などを使用したフェイス to PC のコミュニケーションが成立する。このようなコミュニケーションにおいては短い文章を用いたコミュニケーションになるので真意が伝わりにくく、お互いに相手が何を考えているかこれまで以上に予測が必要となる。従って十分なコミュニケーションが成立しにくい“新しい情報文化”が想定される。

8) 人間関係が希薄化する情報文化（生活／行動様式）

買い物がネットショッピングとなり外出の機会や人に会う機会が減った、SNS でコミュニケーションをとっているものの PC を介しているため文字数が少なく言いたいことが伝わらない、直接顔を合わせる必要のないコミュニケーションが多くなりコミュニケーション能力が低下する。このような傾向から、コミュニケーション技術がさらに発展すると逆に人間関係が上手く築けなくなる“新しい情報文化”が想定される。

9) 思考の断片化が進行する情報文化（生活／行動様式）

SNS では、メールや Facebook に比べると、短い文章の Twitter, Line の利用が多くなっている。また箇条書きのレポートが増える傾向が認められる。短い文字数のコミュニケーションが、説明の省略、短い文章、簡易な説明を是認し、思考の断片化、さらには思考停止に繋がる。思考の断片化により、深く考えない皮相的な理解や判断が多くなる“新しい情報文化”が想定される。

10) 膨大な情報を利用する情報文化（生活／行動様式）

何かわからないことがあればインターネットを調べるといふ学生が多くなり、Wikipedia、まとめサイト、ニュースサイト、動画サイト、SNS の情報が良く利用されている。図書などの紙媒体に比べると効率良く簡単に調べられる、内容の更新があるので最新の情報を得られる。情報の信頼性に疑問を持つことがあっても探し出した情報を選択して使用することになる。知りたい情報を探し出すのが目的で、入手した情報を理解しようという意識が乏しい“新しい情報文化”が想定される。情報を調べる(search)という表現が使用され情報を検索する(retrieve)という表現が一般的な用語でなくなる可能性が高い。

8-3. 個人が情報を利活用できる知識基盤社会への提言

“新しい情報文化（生活／行動様式）”では利便性の追求を実現する内容が多く、個人が情報を利活用できる知識基盤社会という方向とは一致していないように見える。知識基盤社会を実現するための3つの視点を以下に示す。

1) 高校1年生からインターネットを自主学習できる環境の構築

2013年を境にスマートフォンの普及が進み高校1年生になるとほぼ100%の生徒がスマートフォンを所持し、個人環境でインターネットに接続できる環境を獲得する。しかし少なくとも高校3年間と大学の2年までの5年間、インターネット情報の利用については自主学習と言っても良い状況にある。教科「情報」は1年生に配置されることが多いが、利用に関して多くの時間を割ける内容ではない。著作権、プライバシー、個人情報の概念に加え、情報のコンテンツの信頼性に関する学習は学生（生徒）の自己学習に任されている。多くの場合、自己の失敗経験から学んでいる可能性が高い。スマートフォンを所持する高校1年生の時期に情報コンテンツの利用に関する総合的な指導が必要と思われるが、ネットの利用を教えるのではなく、自主学習の環境を提供するほうが適切と考えられる。

2) 自分で考える情報処理様式と考えない情報処理様式の両立

便利になり考える時間が増えているはずだが、現実は何もしない時間が増えている。利便性を優先し使える情報を選択し、それ以上考えない行動様式が一般的になっている。選択で対応できるケースが殆どで、知識の必要性を自覚できる場面が少なくなっているようにも感じられる。一方、考えない社会が出現しても利便性の高い社会が個人にとって心地良い社会であれば、考えない社会も“新しい情報文化”として是認することができる。考えなくても快適な生活ができるという生活様式は情報文化の一つとなる可能性もある。

考えない情報処理様式と、複数の情報を基に考える情報処理様式の両立が求められるようになるであろう。自分で考える習慣を身につけるためには、前項同様、教えるのではなく、自主学習の環境を提供するほうが適切と考えられる。

知識が将来一般的に使用するものである以上、新しい企画を作ったり、概念を考えたり、想定されない場面に対応したりするために知識は必須である。これまでどおり複数の情報をまとめて知識を得たり、既にある自己の知識構造に組み入れたりする力が重要であることに変化はないであろう。情報を使って価値を創造する力と、選択行動で快適な日常生活を送る力を使い分け、両立させる力が要求される。人の嗜好や能力によって2つの力のバランスを決めれば良いことになる。

参考文献

- 1) 情報文化研究フォーラム編, 情報と文化 : 多様性・同時性・選択性, エヌ・ティ・ティ出版, 1986.11.
- 2) 情報文化学会編, 情報文化学ハンドブック : 情報文化学会創立 10 年記念出版, 森北出版, 2001.10.
- 3) 石塚省二編, 情報文化社会の到来 : 東京情報大学情報文化学科創立 10 周年記念論集, 東京情報大学総合情報学部情報文化学科, 2007.8.
- 4) 栗原孝 ほか, 情報文化と生活世界, 福村出版, 1998.4.
- 5) 片方善治, 今井賢共著, 情報文化入門, 海文堂出版, 1994.4.
- 6) 吉見俊哉 ほか, 情報文化の学校 : ネットワーク社会のルール・ロール・ツール, NTT 出版, 1998.4.
- 7) 新村出, 広辞苑第 2 版, 岩波書店, 1955.5
- 8) 新村出, 広辞苑第 4 班, 岩波書店, 1991.11.
- 9) 小暮仁, 教科書情報と社会, 日科技連, 2002.1
- 10) 古藤泰弘著, 情報社会を読み解く/改訂版, 学文社, 2011.5.
- 11) 戸田光彦著, 情報社会とはいかなる社会か?, 新潟日報事業社, 2007.2.
- 12) 犬塚先著, 情報社会の構造 : IT・メディア・ネットワーク, 東京大学出版会, 2006.4.
- 13,14,15) 國領二郎 ほか, 情報社会を理解するためのキーワード 1/ 2/ 3, 培風館, 2003.7.
- 16) フランク・ウェブスター著 ほか, 「情報社会」を読む, 青土社, 2001.8.
- 17) A.トフラー著ほか, 第三の波, 中央公論社, 1982.9.
- 18) アルビン・トフラー, 「生産消費者」の時代, 日本放送出版協会, 2007.7.
- 19) 木村忠正著, デジタルネイティブの時代 : なぜメールをせずに「つぶやく」のか, 平凡社, 2012.11.
- 20) 自治行政局, “個人情報保護条例の現状と総務省の取組”、平成 28 年 11 月 21,
[https://www8.cao.go.jp/kisei-
kaikaku/suishin/meeting/wg/toushi/20161121/161121toushi01.pdf](https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/suishin/meeting/wg/toushi/20161121/161121toushi01.pdf), (2019/1/30)